

## 造船 CIM の経済性評価手法について

染谷 実

CIM の投資は大規模であり、その成否は企業の存続にも影響を及ぼしかねないものであるため、事前に経済性評価が欠かせない。しかしながら、CIM によってもたらされる効果は、人件費の削減のように直接、定量的に把握できるものにとどまらず、むしろ、競争力、品質や企業イメージの向上などのように、間接的にしか把握することのできない定性的な効果が重要となっており、金額的な換算を原則とする在来的な投資の評価手法では、合理的な CIM の経済性評価ができないという問題がでてきている。

このような背景のもとに、本報告では、合理的な造船 CIM の経済性評価のありかたについて調査、検討を行い、その結果として、定性的な CIM の効果の把握に重点をおいた、経済性評価の手順を提案した。そして、その手順の中心となっている KSIM 法（社会システムを取り扱うシステムズ・アプローチの一手法で、主観的な変数と客観的な変数を同時に扱うことができる）の例題として、造船 CIM がわが国の造船業の将来に及ぼす影響の予測モデルをワークステーション上に構築し、実際にシミュレーション計算を行った。

本来、KSIM 法のシミュレーションは、多数の関係有識者の参加のもとに行ってこそ意味を持つものであり、本報告では、著者が独自の判断でモデルの構造化や諸条件の設定を行ったことから、政策提言などに際しての参考資料となるような結果を出すことはできなかったが、例題のシミュレーション計算を行うことによって、KSIM 法が造船 CIM のもたらす定性的な波及効果を把握するのに有効な手法であることは確認できた。

今後、それぞれの造船所が CIM の導入にあたって経済性の評価、特に、戦略的な見地からの検討を行う場合に、本報告で提案した手順が参考になるものと思われる。